



第52号 (平成25年6月発行)
東海ノア協定事務局
(原子力機構・原子力科学研究所内)
Telephone : 029-282-5801
E-mail : t-noah@jaea.go.jp

東海ノア通信 第52号 をお届けします。

東海ノアでは、今年度も加盟事業所の皆様方との相互協力をもとに、積極的に協力活動を進めていきたいと考えています。東海ノア通信では、こうした日頃の協力活動をよりわかりやすく皆さまに紹介しています。

なお、東海ノア協定に基づく活動状況は、ホームページでも紹介しています。

アドレスは、<http://tnoah.jaea.go.jp/> です。

〔トピックス〕

☆活動状況

- ・ 活動推進幹事会の開催状況
- ・ 自主保安に関する協力活動計画
- ・ 自衛消防隊研修会に関する協力活動計画
- ・ 情報等の交換に関する協力活動

☆加盟事業所からの事業所紹介

☆役員の変更

☆今後の主な活動予定

東海 NOAH :

「東海」東海村、「N」那珂市、「O」大洗町、「A」旭村（現銚田市）、「H」ひたちなか市

☆活動状況

活動推進幹事会の開催状況

○第63回活動推進幹事会

- 開催日：平成25年6月17日（月）
- 開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所
- 議題：（1）第62回活動推進幹事会議事録について
（2）原子力事業所安全協力協定役員等の変更について
（3）平成25年度 第1回自主保安点検協力活動計画について
（4）平成25年度 原子力事業所自衛消防隊研修会計画について
（5）平成25年度 通報連絡訓練実施計画について
（6）情報交換に係る配信情報について
（7）原子力事業所安全協力協定等の改訂について
（8）東海ノア通信第52号の発行について
（9）その他

第63回活動推進幹事会では、議題（7）により「原子力事業所安全協力協定」の改訂についての審議がなされ、事務局より改訂の主旨等について説明し、幹事会委員の全員一致で承認されたことから、平成25年7月末を目途に、各加盟事業所にて改定手続きをお願いすることとなりました。

また、先の安全協力委員会および活動推進幹事会において改定の承認をいただいております、「緊急事態協力活動要領」および「緊急事態協力活動マニュアル」につきましても、協定の改訂時期に合わせて改定することとなりました。



第63回活動推進幹事会

自主保安に関する協力活動

協定に加盟している事業所を対象に、核燃料物質使用施設、放射性物質取扱施設等の安全担当実務者及び防火管理の担当実務者等からなる専門家を派遣し、安全管理について様々な観点から確認、意見交換を行い、安全管理の向上に役立てるための活動を行っております。

平成 25 年度第 1 回目の活動は、「ニュークリア・デベロップメント株式会社」を対象に、7 月 25 日（木）の実施を予定しています。

点検協力活動の様子は、次号にて紹介いたします。

自衛消防隊研修会に関する協力活動

今年度で第 5 回目となる自衛消防隊研修会は、昨年度同様、茨城県立消防学校において、平成 25 年 9 月 10 日（火）に開催を予定しています。

今年度は、前回開催後の反省会で消防本部講師より訓練内容の変更提案をいただいたことからカリキュラムを大幅に変更し、従前の実動訓練に加え、総合（複合）訓練を行う計画にしています。協定加盟事業所へは、開催日が近づきましたらお知らせをいたします。

情報等の交換に関する協力活動

協定加盟事業所等より東海ノア協定事務局に提供された法令報告事象などプレス発表された事故、トラブル情報や安全管理上有用な情報等について、提供を受けた都度、協定加盟全事業所に配信しています。

平成 25 年 4 月から 6 月の間では、以下の 7 件の情報提供があり、協定加盟全事業所に配信いたしました。

○プレス発表された事故、トラブル関連情報の提供

| 事業所 | 情報提供日 | 件名 |
|-------------------------|---------------------|---|
| 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 | 平成 25 年 5 月 25 日 | J-PARC ハドロン実験施設におけるトラブルについて |
| 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 | 平成 25 年 5 月 25 日 | J-PARC ハドロン実験施設におけるトラブルについて (被ばく評価の状況) |
| 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 | 平成 25 年 5 月 27 日 | J-PARC ハドロン実験施設における作業者の被ばくについて |
| 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 | 平成 25 年 5 月 29 日 | J-PARC ハドロン実験施設における入域者の被ばくについて |

| | | |
|-------------------------|---------------------|---|
| 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 | 平成 25 年 5 月 29 日 | J-PARC ハドロン実験施設からの 放射性物質の放出に伴う環境影響 評価について |
| 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 | 平成 25 年 5 月 31 日 | J-PARC ハドロン実験施設におけ る放射性物質の漏えいについて (放射線発生装置故障等報告書) |

○協定加盟事業所以外からの情報提供

| 事業所 | 情報提供日 | 件名 |
|-------------------------|--------------------|---|
| 青森県内原子力事業者間 安全推進協力協定 | 平成 25 年 5 月 2 日 | 「青森県内原子力事業者間安全推 進協力協定」に基づく活動実績の青 森県への報告およびHPアップに ついて |

☆協定加盟事業所からの事業所紹介

東海ノア通信では、協力協定加盟事業所間の相互理解を図ることを目的に、安全活動への取組状況等について各事業所からの紹介記事を掲載しています。

今号では、「日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター」からの紹介です。

—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—∞—

『当センターの安全活動状況について』

独立行政法人日本原子力研究開発機構
大洗研究開発センター

1. はじめに

大洗研究開発センター（以下「センター」という。）では、高速実験炉「常陽」や冷却系機器開発試験施設（AtheNa:アテナ）等における高速増殖炉(FBR)サイクルの研究開発、材料試験炉(JMTR)を用いた原子炉用燃料や材料の照射試験とR1(⁹⁹Mo/^{99m}Tc)の国産化技術開発、高温工学試験研究炉(HTTR)を中心とした原子力による水素製造技術の研究開発等を行っています。



AtheNa 施設外観 (H24.1.31 竣工)
建屋：幅約 130m、奥行き約 60m、高さ約 55m

また、福島第1原子力発電所事故に対して、環境放射能の測定評価や除染活動、福島県民の内部被ばく検査等の支援活動を行うとともに、発電所サイトにおける廃止措

置等に向けた研究開発として、センターの施設と技術を用いて、原子炉内部からの燃料を取り出すための技術開発や安全評価等に取り組んでいます。

これら業務の実施に当たっては、品質マネジメントシステムのもとに保安活動を行い、業務の継続的な改善に取り組むとともに、総合訓練等を通じて事故対応体制の充実を図るなど、地域の方々の安心と信頼が得られるよう努めています。

以下に、センターの安全活動状況について、その一端を紹介します。

2. 安全衛生活動の実施状況

センターでは、下記の基本方針のもとに、安全衛生活動や安全文化の醸成活動を行っています。具体的な活動項目を年間の活動計画として策定するとともに、これらの活動の実施状況を定期的に確認・評価して、活動内容の見直しを行うなど、PDCAを回して安全衛生活動の推進を図っています。

今年度は、現場を重視した安全管理を推進するための工夫を取り入れて活動しています。

《平成25年度 安全衛生活動基本方針》

- 安全の確保を最優先とする
- 法令及びルール(社会との約束を含む)を守る
- リスクを考えた保安活動に努める
- 双方向のコミュニケーションを推進する
- 健康管理の充実と労働衛生活動に積極的に取り組む

(1) 意識の高揚とコミュニケーションの工夫（所長の決意表明等）

所長が自ら、年度の初めに、センターの主要な業務目標や地域の社会情勢等を踏まえた安全確保への決意を、構内放送などで全従業員に直接伝えています。所長の決意表明を受け、各部の部長等もそれぞれの安全確保への決意を表明し、所属従業員等に安全活動への積極的な取り組みを指示しました。

また、所長が各部署に出向いて、安全確保への取り組みや施設・設備など職場の課題や問題について従業員と意見交換を行い、風通しの良い職場づくりを推進しています。

(2) 安全パトロールの有効性向上の工夫

所長や安全スタッフによる安全パトロールに加えて、職場ごとの安全パトロールを行い、日々の安全確認を行っています。パトロールでは、チェック項目を明確にしたガイドラインを活用して、効果的かつ効率的に実施するようにしています。ガイドラインは適宜見直しています。

また、パトロールで抽出した良好事例はイントラネットに掲載し、他部署でも活動の参考にできるようにしています。

(3) ヒヤリハットの活用拡大の工夫

体験したヒヤリハット事象は職場内で共有するとともに、センター内でも募集活動を行い定期的に取り纏めています。昨年度は129件が集まりました。これらの事例は作業種類別に整理し、注意事項を加えてイラスト化しています。イラストはイントラネットに掲載し、誰もが確認できるように、また、KY活動に活用できるようにしています。



(4) 火災防止活動の工夫（リスクアセスメント）

火気取扱作業に隣接したエリアでの引火性スプレー溶剤の使用による火災等、センター内でこれまでに経験した事例の再発防止対策として、火気取扱作業（溶接、溶断、溶媒）におけるリスクアセスメント（以下「RA」という。）を行っています。RAの実施結果は安全スタッフによる確認を行い、溶接作業時における可燃物の排除や防災シートによる火花の飛散防止等の改善策を講じるなど、作業開始前や作業中の安全確認の強化を図っています。

なお、センターでは負傷事例や火災事例等をデータベース化したRA支援ツールを整備し、RAの実施において活用しています。

(5) 危険を認識する工夫（体感研修）

作業の中にはどんな危険があるかを疑似体験することで危険に対する感受性を向上させるため、体感研修を取りいれています。昨年度は、株式会社クレハ技能研修センターへ従業員を25名派遣して、高所危険体感、火災・爆発の怖さ体感等の体感研修を行いました。受講者からは、「飛来落下衝撃体感ではヘルメットの重要性を改めて感じた」、「安全带体感や電気危険体感は、現場作業に活かせると感じた」等の意見が多くあり、意識高揚が図られたと考えています。



体感研修：火災・爆発の怖さ体感の様子
(アルコールランプにスプレーガスを吹きかけ)

(6) 設備・機器の保守管理の工夫

設備・機器の経年化について、故障した場合の影響度、補修課題の緊急度、耐用寿命及び設備ごとに設けたPI指標（Performance Indicator：劣化の進行具合を確認する項目と頻度）等からリスク評価する仕組みを構築して、リスク評価を行っています。評価結果はリスクの高いものから順番にリスト化し、補修や更新などの保守管理の際の判断基準の一つとして活用しています。また、今年度は特に、電気設備の劣化を早期に把握し、発煙事象の防止等を図ることとしてPI指標に基づく管理（確認）を適切に実施することとしています。

(7) 保安教育の確実な実施への工夫

センターでは5つの保安規定（北地区・南地区の原子炉施設及び核燃使用施設、廃棄物管理施設）に基づく保安教育・訓練及び各種規則等に基づき保安教育が要求されています。これらの規定等で要求されている保安教育・訓練を漏れなく、確実に実施するため保安教育訓練管理システムを運用しています。本システムは、個人毎及び組織の年間教育訓練計画、教育毎の実施結果の記録、教育内容に係る理解度確認のための受講者に対するアンケートと集計、実施結果の年間報告書等が作成できます。保安教育の必要な対象者が規定等を遵守し、適切に保安教育訓練が実施されるよう活用しています。

3. リスクへの備え（危機管理、防災資機材の充実強化）

センターでは大規模災害を想定して、モニタリングポストや緊急時の連絡通報設備等の電源を確保するために非常用発電機を設置するとともに、その燃料供給のためのタンクローリーや資機材運搬用のユニック車、がれき等の排除を目的としたミニホイールローダ、夜間の活動に備えた投光器等の防災資機材を整備しました。

また、これらの資機材を確実に取り扱えるようにするため、センターの緊急時対応体制の中に、新たに、緊急時資機材運転管理班を設置するとともに燃料や資機材の調達を行う緊急時調達班を設置しました。

併せて、高速実験炉「常陽」、JMTR、HTTR等の原子力施設において総合防災訓練を定期的に行い、新たに整備した防災資機材や緊急時対応体制の機能を確認する等、緊急時対応体制の強化を図っています。



タンクローリーによる消防車への給油の様子
平成24年度第2回総合訓練

☆役員の変更 [平成25年4月1日付け]

原子力事業所安全協力委員会

| | (新) | (旧) |
|-----|---|--------------|
| 委員長 | 近藤 悟 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所 所長 | 市村 敏夫 同 左 |

緊急事態協力活動本部

| | (新) | (旧) |
|------|---|-----------------|
| 本部長 | 近藤 悟 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所 所長 | 市村 敏夫 同 左 |
| 副本部長 | 山口 恭弘 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所 副所長 | 三好 慶典 同 左 |
| 副本部長 | 武田 誠一郎 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 核燃料サイクル工学研究所 所長代理 | 山本 隆一 同所 副所長 |

☆今後の主な活動予定

- ・平成 25 年度 第 1 回自主保安点検協力活動・・・・・・・・・・・・ 7 月
- ・平成 25 年度 第 1 回安全教育研修・・・・・・・・・・・・・・ 9 月
- ・平成 25 年度 自衛消防隊研修会・・・・・・・・・・・・・・ 9 月
- ・第 64 回活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・ 9 月
- ・第 29 回安全協力委員会・・・・・・・・・・・・・・ 10 月

〔編集後記〕

可憐な花を咲かせ「森の妖精」とも言われるオオウメガサソウの開花時期に合わせて、ひたちなか市馬渡の国営ひたち海浜公園では、今年も観察会が予定されています。

オオウメガサソウは、県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定され、同園が世界の南限の自生地といわれています。

原子力科学研究所構内の松林の中の生育地域（保護区域）では、まだ開花したものを見かけませんが、松林の中に淡いピンク色の花が広がるのを楽しみにしています。



〔H24.6.12 撮影〕

東海ノア通信の目的である「情報の交換・共有化」を行いながら、皆様の参考となるよう更に充実図っていきたいと考えています。事務局へのご要望等がございましたら、忌憚のないご意見をお寄せください。

東海ノア通信

東海ノア
(東海 NOAH)

